

令和6年度第2回魅力ある学校づくり研修会

グループ協議の記録のまとめ

各グループの協議内容の概要は以下の通りです。

1 不登校の現状について

(1) 児童生徒の状況

- ・小学校では、高学年になるにつれて不登校の児童が増える傾向にあり、大規模校では、特にその数が多いことが報告された。
- ・校内サポートルームの有無や活用状況は学校によって異なり、サポート体制の充実が求められている。
- ・不登校の要因は、家庭環境、人間関係、学習の遅れ、無気力など多岐にわたる。

(2) 対応

- ・多くの学校で、児童生徒の状況に応じた個別の支援計画を立て、関係機関と連携しながら対応している。
- ・サポートルームや保健室の活用、オンライン学習の導入、家庭訪問、スクールカウンセラーの活用など、様々な支援が行われている。
- ・学校全体で組織的に対応し、情報共有を密に行うことの重要性が指摘されている。

2 個々の状況に応じた支援の在り方について

(1) 支援のポイント

- ・児童生徒の小さな変化に気づき、早期に対応すること。
- ・個々の状況に合わせて、学習支援、心理的なサポート、居場所の提供など、柔軟な支援を行うこと。
- ・学校、家庭、地域が連携し、多角的な支援体制を構築すること。
- ・ICTを活用し、学習機会の提供やコミュニケーションの円滑化を図ること。

(2) 課題

- ・保護者との連携や合意形成の難しさ。
- ・支援する人材の不足や専門性の確保。
- ・家庭環境への介入の線引き。
- ・ICTを活用した効果的な支援の方法。

3 今後の支援の在り方について

(1) 学校全体での組織的な対応

- ・学級担任だけでなく、学校全体で児童生徒を支える体制づくり。
- ・生徒指導主事、養護教諭、スクールカウンセラーなど、多職種が連携したチーム支援。

(2) 地域との連携

- ・民生委員など地域の協力を得て、多様な支援体制を構築。
- ・フリースクールや学習支援団体など、地域の資源を活用。

(3) ICTの活用

- ・オンライン学習や相談体制の整備。
- ・学習支援アプリや教材の活用。

- (4) 保護者への支援
- ・保護者向けの相談窓口や学習会の開催。
 - ・家庭教育に関する情報提供。
 - ・保護者同士の交流機会の提供。

4 その他

- (1) 小・中学校の連携
- ・中学校への円滑な移行を支援するため、小・中学校間の情報共有や交流を促進。
 - ・中学校の校則や学習内容を事前に説明するなど、不安軽減のための取組。
- (2) 未然防止
- ・アンケート調査や教育相談などを通して、早期に課題を把握し、未然防止に努める。
 - ・児童生徒が安心して過ごせる居場所づくり。
 - ・SNSの適切な利用に関する指導や啓発。

これらの意見を踏まえ、小・中学校や関係機関では、不登校の子どもたちへの支援体制を更に強化し、全ての子どもたちが安心して学べる環境づくりを目指していくことが確認された。